

県南広域振興局長

提出者 株式会社東北鉄興社

住所 〒029-0303 岩手県一関市東山町松川字滝ノ沢198番地

氏名 代表取締役社長 伊賀康治

(法人にあつては、その名称及び代表者の氏名)

地球温暖化対策実施状況届出書

県民の健康で快適な生活を確保するための環境の保全に関する条例第83条の規定により、地球温暖化対策の実施状況について、次のとおり届け出ます。

1. 事業者に関する事項

主たる工場又は事業場の名称	株式会社東北鉄興社	*整理番号	
主たる工場又は事業場の所在地	岩手県一関市東山町松川字滝ノ沢198番地	*受理年月日	年 月 日
エネルギー使用量	11,372 kl	*施設番号	
自動車の使用台数	台		
二酸化炭素の排出の状況	別紙のとおり。		
二酸化炭素の排出の抑制のための措置状況			
その他の地球温暖化の対策の実施状況			
変更年月日及び理由	年 月 日		
エネルギーの使用の合理化等に関する法律第19条第1項に定める連鎖化事業者	該当しない		

2. 県内に設置している工場又は事業所並びに店舗の一覧

工場等の名称	工場等の所在地	エネルギーの使用量
株式会社東北鉄興社	〒029-0303 岩手県一関市東山町松川字野平159番地1	11,372 kℓ
		kℓ
		kℓ

備考1 *印の欄には、記載しないこと。

- エネルギー使用量の欄は県民の健康で快適な生活を確保するための環境の保全に関する条例施行規則第39条第1項に規定する工場又は事業場に該当する場合に、自動車の使用台数の欄は同条第2項に該当する場合に記載すること。
- エネルギー使用量については、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則（昭和54年通商産業省令第74号）第4条の方法により原油の数量へ換算した量を記載すること。
- 変更計画書の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
2. 県内に設置している工場又は事業所並びに店舗の一覧の記載欄が足りない場合には、別に（別途）一覧を作成の上、添付してください。



別紙 その1 (工場又は事業者用)

1 温室効果ガスの排出状況

(1) エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量

エネルギーの種類	(2024)年度						E=B-D	二酸化炭素排出量 (t-CO ₂)	前年度二酸化炭素排出量 (t-CO ₂)	対前年度比二酸化炭素排出量 (t-CO ₂)
	エネルギーの使用量			販売したエネルギー使用量						
	数値	単位	熱量(GJ)	数値	単位	熱量(GJ)				
原油(コンデンセートを除く)		kL			kL					
原油のうちコンデンセート(NGL)		kL			kL					
揮発油(ガソリン)	2	kL	67		kL		67	5	5	
ナフサ		kL			kL					
ジェット燃料		kL			kL					
灯油	5	kL	183		kL		183	13	13	
軽油	106	kL	4,028		kL		4,028	278	278	
A重油	230	kL	8,947		kL		8,947	633	633	
B・C重油	85	kL	3,553		kL		3,553	263	263	
石油アスファルト		t			t					
石油コークス		t			t					
石油ガス	液化石油ガス(LPG)	1	t	50	t		50	3	3	
	石油系炭化水素ガス		千m ³		千m ³					
	液化天然ガス(LNG)		t		t					
	その他可燃性天然ガス		千m ³		千m ³					
石炭	可燃性天然ガス		t		t					
	輸入原料炭		t		t					
	原料炭		t		t					
	コークス用原料炭		t		t					
	吹込用原料炭		t		t					
	一般炭		t		t					
輸入一般炭		t		t						
国産一般炭		t		t						
輸入無煙炭		t		t						
石炭コークス		t		t						
コールタール		t		t						
コークス炉ガス		千m ³		千m ³						
高炉ガス		千m ³		千m ³						
発電用高炉ガス		千m ³		千m ³						
転炉ガス		千m ³		千m ³						
その他の燃料	都市ガス		千m ³		千m ³					
	()									
	()									
黒油		t		t						
木材		t		t						
木質燃料		t		t						
バイオエタノール		kL		kL						
バイオディーゼル		kL		kL						
バイオガス		千m ³		千m ³						
その他バイオマス		t		t						
RFDF		t		GJ/t						
RFDF		t		GJ/t						
炭ダイオキシン		t		GJ/t						
炭プラスチック(一般廃棄物)		t		GJ/t						
炭プラスチック(産業廃棄物)		t		GJ/t						
廃油	9,173	kL	368,785		GJ/kL		368,785	24,203	24,203	
廃棄物ガス		千m ³		千m ³						
混合廃材		t		t						
水素		t		t						
アンモニア		t		t						
その他燃料()		t		t						
小計①						368,785	24,203	24,203		
産業用蒸気		GJ		GJ						
産業用以外の蒸気		GJ		GJ						
温水		GJ		GJ						
冷水		GJ		GJ						
地熱		GJ		GJ						
温泉熱		GJ		GJ						
太陽熱		GJ		GJ						
雪氷熱		GJ		GJ						
小計②										
電気事業者①	6,365	千kWh	55,192		千kWh		55,192	2,568	2,568	
電気事業者② ※複数契約している場合使用		千kWh			千kWh					
自己託送(非燃料由来を除く)		千kWh			千kWh					
太陽光		千kWh			千kWh					
水力		千kWh			千kWh					
風力		千kWh			千kWh					
その他		千kWh			千kWh					
小計③						55,192	2,568	2,568		
合計④=①+②+③						440,774	27,965	27,965		

(2) 原油換算エネルギー使用量=(1)のエネルギー合計使用量×0.0258

原油換算エネルギー使用量	11,372	kL
--------------	--------	----

(3) 温室効果ガスの総排出量

区分	温室効果ガスの排出量	
二酸化炭素の排出量	エネルギーの使用に伴って発生する二酸化炭素	27,965 t-CO ₂
	上記以外の二酸化炭素	t-CO ₂
メタンの排出量	t-CO ₂	
一酸化二窒素の排出量	t-CO ₂	
ハイドロフルオロカーボンの排出量	t-CO ₂	
パーフルオロカーボンの排出量	t-CO ₂	
六ふっ化硫黄の排出量	t-CO ₂	
三ふっ化窒素の排出量	t-CO ₂	
合計	27,965 t-CO ₂	

- 備考1 原油換算量は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則(昭和54年通商産業省令第74号)第4条の方法により換算してください。
- 2 二酸化炭素排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(平成11年政令第143号)の第3条の規定により算定してください。
- 3 エネルギーの使用量の欄には、県内に設置している工場又は事業所並びに店舗におけるエネルギー使用量の合計を記載してください。

別紙 その2

1 地球温暖化対策計画の達成状況

【目標値の達成状況(進捗状況)】

目標設定時には非化石エネルギーの報告がなく、現在は非化石エネルギーの報告が含まれている。非化石エネルギーの使用を考慮すると、令和4年度(2022年度)のCO2排出量は28,083t-CO2となり、令和6年度(2024年度)のCO2排出量は27,965t-CO2となった。

令和7年度(2025年度)までに令和4年度(2022年度)比でCO2排出量を3%削減するという目標に対して、令和6年度(2024年度)のCO2排出量は令和4年度(2022年度)比で0.4%の削減となった。

弊社のCO2排出量は生産量に依存することから単純な排出量比較ではなく、排出量を生産量で除した原単位で評価するのが適当である。原単位評価では1.9%の改善となり、目標に対して順調な進捗である。

次回の目標設定時には原単位による評価を設定する。

【具体的な取組状況】

①電気

運転方法の改善、設備・機械効率の改善の実施。機械保全強化による機械効率の維持。感知式照明の導入、照明の間引き実施。

→感知式照明の導入については場所のピックアップ実施。照明の間引きは継続実施。

エアコン整備の徹底。フィルター掃除の定期的実施、年一度の業者による点検実施。

→業者による点検実施。(6月)

以上の対策を実施し、電気使用量を2022年度比5%削減する。

→電気使用量は2022年度比3.1%削減。2025年度目標に対して順調に推移。

②A重油(焼成用除く)

石灰焼成炉でのアトマイジング用蒸気の使用量削減により、A重油使用量を削減する。

安定的に設備を稼働させ、A重油使用量を2022年度比55%削減する。

→2024年度のA重油使用量は2022年度比66%削減となり、2025年度までの目標達成。

③軽油、揮発油

アイドリングストップを実践するとともに、急発進、急加速をやめるエコドライブを推進し、軽油、揮発油の使用量を削減する。

→特になし。

○再生可能エネルギー(再エネ設備導入、再エネ由来電力の調達)

情報収集含め関係業者と検討を進める。

→情報収集継続。再生重油業者と量確保の交渉継続。グリーン電力への切替検討。

○自動車利用抑制

→特になし。

○輸送の合理化

消石灰積み込み時間の短縮に努める。

→タンクにエアレーション設備を設置、積み込み時間約10分/台短縮。

備考 計画書に記載した各種取組の進捗・達成状況について記載してください

2 その他の地球温暖化の対策の実施状況

・コピー用紙の社内利用に限り裏面を使用し、紙使用量を削減できた。

・会議資料の紙での配布を一部停止、紙使用量を削減できた。

・資源ゴミ等の分別回収の徹底ができた。